

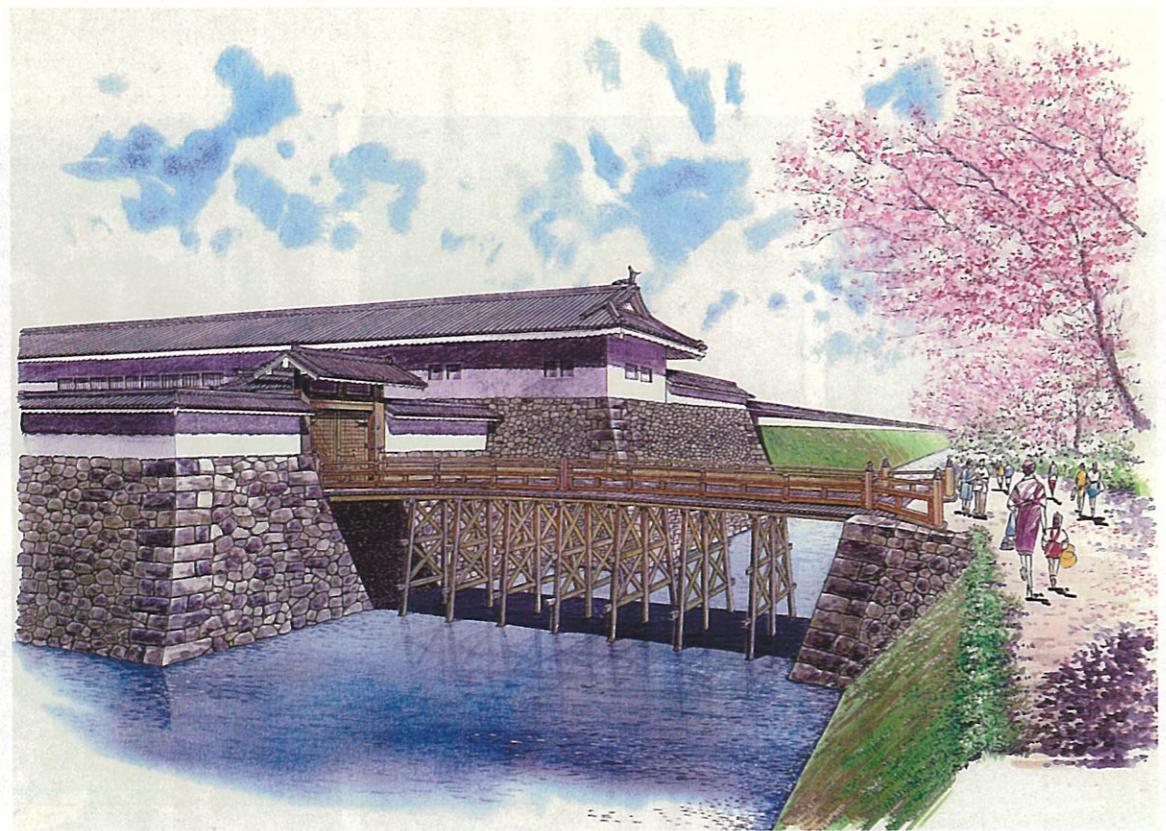
よみがえる山形城

史跡 山形城跡

本丸一文字門大手橋復原



南側エリア完成後の鳥瞰図



本丸一文字門復原完成イメージ図

- ◎今後は、本丸堀・土塁の復原を最優先に進め、その後本丸一文字門枡形部の高麗門・土塀を復原する予定です。
- ◎本丸一文字門櫓の復原につきましては、国の史跡に指定されていることから二ノ丸東大手門を復原した時のような写真や建物の実測図などの歴史的資料の裏付けが必要であるため、山形市では、これに関わる資料をさがしております。
皆様方のご協力をお願いいたします。



■お問い合わせ先 ■ 発注者：山形市都市開発部公園緑地課
〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号
TEL (023) 641-1212 (代)
設計・監理者：有限会社建築文化研究所
施工者：山形建設株式会社

山形市

事業のあらまし

霞城公園は、山形城跡に開設された都市公園で、昭和61年にその歴史的価値が認められ、二ノ丸堀の内側約33.4haの区域が国の史跡に指定されました。

城の遺構として、二ノ丸の堀と土塁、東西南北にそれぞれ門の石垣が残されています。

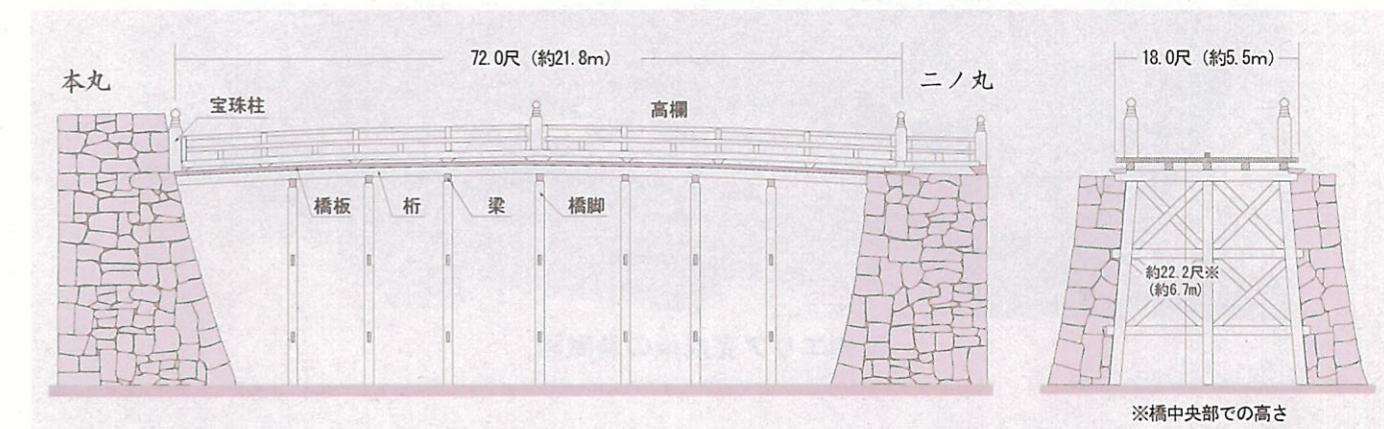
二ノ丸東大手門は、長年にわたり遺構調査・史実調査等を行い、市制100周年記念事業として史実に基づき平成3年3月に復原しました。

平成3年度から本丸堀の発掘調査を行い、本丸の大手門にあたる一文字門の石垣が約100年ぶりに地中から発掘され、平成10年度から石垣の復原工事に着手し、平成15年度に完了しました。

引き続き、本丸一文字門大手橋を復原するために平成16年度には木材を購入し、平成17年度には加工組立工事を行い復原が完了しました。

大手橋の復原にあたっては、国の史跡に指定されていることから、復原工事を「文化財工事」と位置付けて秋元氏時代の粕川家絵図や発掘調査の結果等に基づき、できる限り史実にそって復原しました。

本丸一文字門大手橋完成まで



大手橋復原工事の概要

1. 構造

木造橋梁、反橋、高欄および袖高欄（二ノ丸側のみ）付

2. 尺法

長さ（宝珠柱間） 72.0尺（約21.8m）

幅（橋板長さ） 18.0尺（約5.5m）

高さ（橋中央部） 約22.2尺（約6.7m）

3. 材質

橋脚（杉丸太）、橋板（栗）、高欄（杉）、桁・梁（松）

○橋の大きさ

橋の長さ、幅等の寸法については、「粕川家絵図」を基に決定しました。

長さ 12間 = 72.0尺（約21.8m）

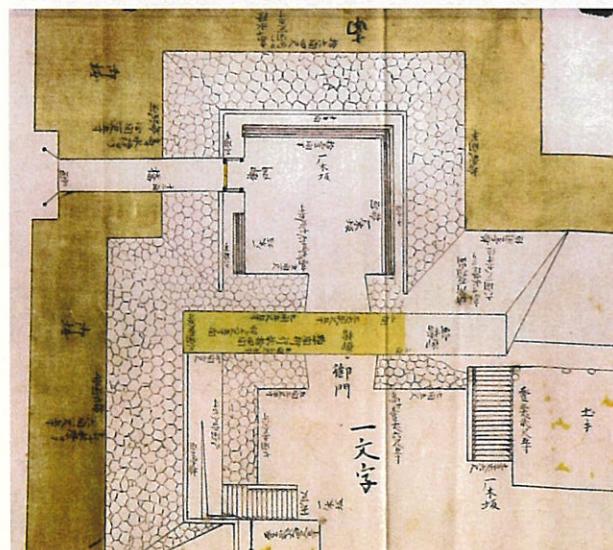
幅 3間 = 18.0尺（約5.5m）

○材質

材質は、堀底より出土した遺物の形状を基に使用された部材を想定し、科学的な樹種鑑定によりそれぞれの部材の材質を決定しました。

○橋脚の位置

橋脚の位置は、発掘調査の結果を基に決定しており、橋脚の間隔は約2.1～2.8mとなっています。



粕川家絵図「山形城本丸一文字門平面図」(秋元時代)



山形城跡本丸一文字門大手橋橋脚部発掘状況



①着工前



②木材加工



③橋脚部地組



④橋脚建方



⑤桁建方



⑥床板建方



⑦高欄建方



⑧飾金物鋳造



⑨完成